



沿岸漁業調査船「若潮丸」が竣工しました

水産試験場では、今まで運用していた沿岸漁業調査船の調査観測機器の旧式化に伴って調査能力が低下してきたため、新調査船の建造を平成 14 年度から進めておりました。このほど、竣工いたしましたので、調査船の概要を紹介いたします。

新調査船も旧船と同じ船名「若潮丸」を継承しています。総トン数は 19 トン、全長 19.9m、船質は高張力鋼を用いています。主機関は 636kW×1 基で、航海速力は 14 ノットです。最大搭載人員は、20 名（船員 3 名、その他 17 名）となります。

新「若潮丸」は、旧調査船が装備していた水深別水温測定機、自走式水中テレビ、海底地形探査装置等の機器の大幅な性能向上に加えて、水深別潮流の測定、クロロフィルの測定などの観測機器やトロールウインチおよび A フレームクレーン等の調査機器が新たに付け加えられました。これによって、従来から行なっていた漁場環境調査、人工魚礁調査、定置網設置状況調査、資源生態調査の調査精度の大幅な向上が図られています。さらに、潮流計と水中テレビとの組み合わせにより、大型クラゲの網に対する行動と流速との関係などの防除技術開発にも役立てることが可能となりました。

これからは、新「若潮丸」が県下の沿岸漁場を調査にまわりますので、見かけましたら応援のほどよろしくお願いいたします。



○若潮丸装備一覧

<調査機器>

水深別水温塩分計、魚群探知機、自走式水中 TV、潮流計、多段開閉式ネット
海底地形探査装置、イカ釣機、トロールウインチ、A フレームクレーン

<航海機器>

自動操舵装置、サテライトコンパス、カラーレーダー、カラービデオプロッター

(安達辰典)

〔海の状態（2／21～3／20）〕

神子表面水温……天候の影響が大きいものの、期間全体を通してやや高め（平年より1℃程度高め）からはなはだ高め（平年より1.5～2℃程度高め）で推移した（図1）。

米ノ表面水温……期間全体を通して、平年並み（平年より±0.5℃）からやや高めで推移した（図2）。

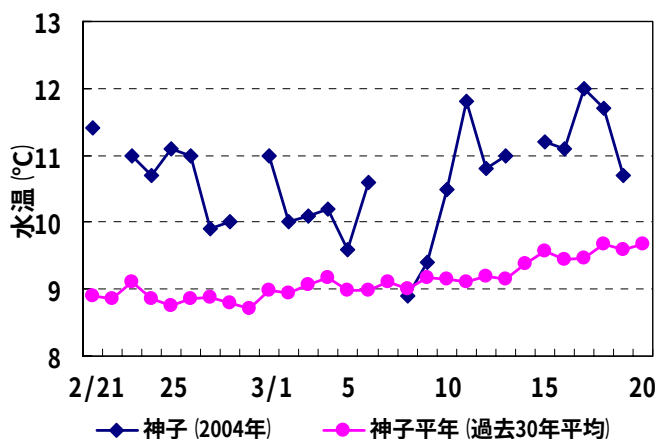


図1 三方町神子地先における表面水温の推移

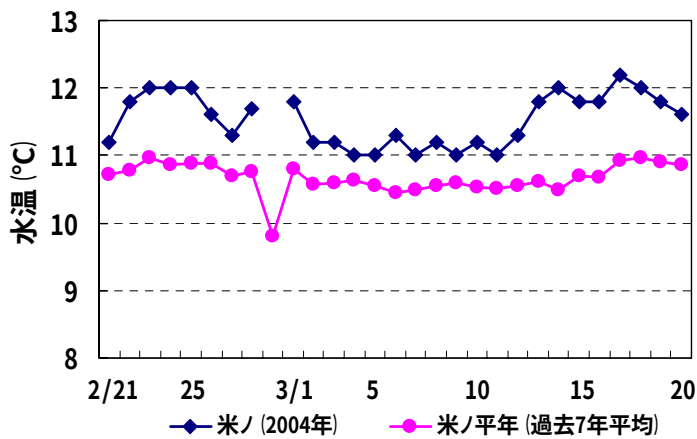


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温……沿岸域には11～12℃台の水域が大きく広がっていた。

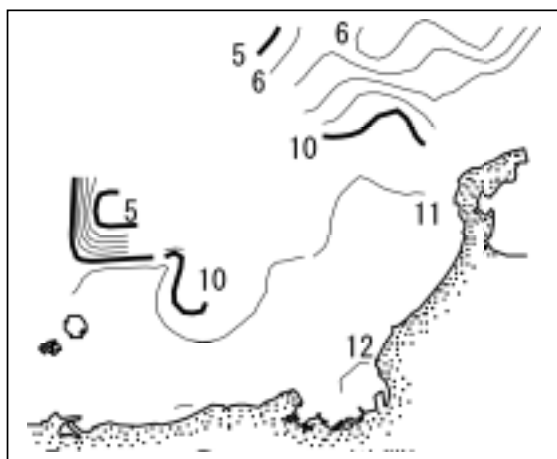


図3 2004年3月上旬の100m深水温



図4 2003年3月上旬の100m深水温

〔漁の模様〕

2004年2月の県内の総水揚げ量は626tで、2003年同月を492t下回った。ブリ類[ハマチ・ツバス主体]（2004年、26t、2003年、12t）等は上回ったものの、サワラ(3t、19t)、アカガレイ(86t、146t)、その他カレイ(36t、52t)、ハタハタ(140t、474t)、ズワイガニ(30t、43t)、水ガニ(64t、105t)等は下回った。

漁業種類別の状況

定置網……ブリ類[ツバス主体]等は上回ったものの、サワラ等が下回り、昨年並みの水揚げとなった。

底びき網……ハタハタは平年を上回る水揚げがあったものの、豊漁であった昨年を大きく下回り、アカガレイ、その他カレイ、ズワイガニ、水ガニ等も下回り、全体で479t下回った。

釣り・他……スルメイカ（船凍イカ主体）は上回ったものの、ブリ類（ツバス主体）、アマダイ等が下回り、昨年並みの水揚げとなった。

〔県内主要漁業の2月の漁獲量〕

(調査対象市場：三国・越廼・敦賀・早瀬・小浜の各漁連支所、福井市・越前町・若狭高浜の各漁協)

(単位:kg)

定 置 網			
魚 種	2004年	2003年	94-03平均
マイワシ	0	1	94,437
カタクチイワシ	567	0	3,561
アジ類	15,849	21,170	8,070
サバ類	228	1,021	2,589
ブリ類	18,325	1,864	3,406
サワラ	3,209	18,689	1,201
スズキ	3,977	2,179	2,406
フグ類	534	913	1,010
ヤリイカ	4,447	5,336	2,671
その他	4,916	7,967	8,863
合 計	52,052	59,140	128,213

底 び き 網			
魚 種	2004年	2003年	94-03平均
ヒラメ	765	837	1,464
アカガレイ	85,877	145,578	109,129
その他カレイ	24,188	39,860	31,513
アナゴ	1,221	1,732	3,248
ハタハタ	139,882	474,419	28,074
タコ類	3,555	5,125	7,878
ズワイガニ	29,563	43,412	24,276
水ガニ	64,400	104,866	69,663
アカエビ	12,737	15,911	11,515
その他エビ	4,620	7,331	6,051

底 び き 網 の つづ き			
魚 種	2004年	2003年	94-03平均
その他	22,582	29,111	41,761
合 計	389,390	868,182	334,570

釣 り, 延 縄, さ し 網, そ の 他			
魚 種	2004年	2003年	94-03平均
アジ類	471	610	1,228
サバ類	17	196	317
ブリ類	7,739	10,595	6,561
マダイ	1,778	2,385	1,676
キダイ	973	945	644
アマダイ	3,319	5,945	2,778
スズキ	1,783	2,652	886
ヒラメ	3,590	4,593	3,366
その他カレイ	11,678	12,387	8,193
アナゴ	515	413	926
メバル類	4,923	5,533	4,794
スルメイカ	79,030	73,761	21,807
ヤリイカ	10,229	10,063	3,634
コウイカ	475	2,334	1,527
タコ類	6,236	7,684	13,458
その他	51,527	49,817	45,615
合 計	184,283	189,912	117,411

総 計	2004年	2003年	94-03平均
	625,725	1,117,233	628,962

〔近府県の漁模様〕

(2月下旬から3月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。)

石川県 …… 定置網 …… スルメイカ190kg、カタクチイワシ164kg、アジ79kg
 …… 底びき網 …… ハタハタ348kg、アカガレイ71kg、ニギス66kg、ズワイガニ36kg
 京都府 …… 定置網 …… マアジ4.5t、ウルメイワシ0.5t、サワラ0.5t、ヤリイカ0.1t
 兵庫県 …… 定置網 …… アジ252kg、カタクチイワシ63kg、ヤリイカ21kg
 鳥取県 …… まき網 …… マアジ17.3t、ウルメ6.7t、マサバ3.1t、カタクチ1.5t
 (松宮 由太佳)

平成16年夏季の日本海区の海面水温予報

舞鶴海洋気象台から、平成16年夏季(7～9月)の日本海区の海面水温予報が発表されましたので、関係部分を紹介します。

- 海面水温…日本海及び東シナ海の海面水温、日本海の潮位、親潮及び黒潮の勢力等の要素との関連を統計的に調査して予測したところ、日本海区の海面水温は、平年並みと予想される。
- 対馬暖流の勢力…去年の対馬暖流の勢力は、3～7月は1990年以降の14年間で1番弱く、現在も平年より弱い状態で推移している。上記と同様の手法で予想した結果、平成16年の夏季は、平年より弱いと予想される。

『海面水温は、平年並みでしょう。』

『対馬暖流の勢力は、平年より弱いでしょう。』

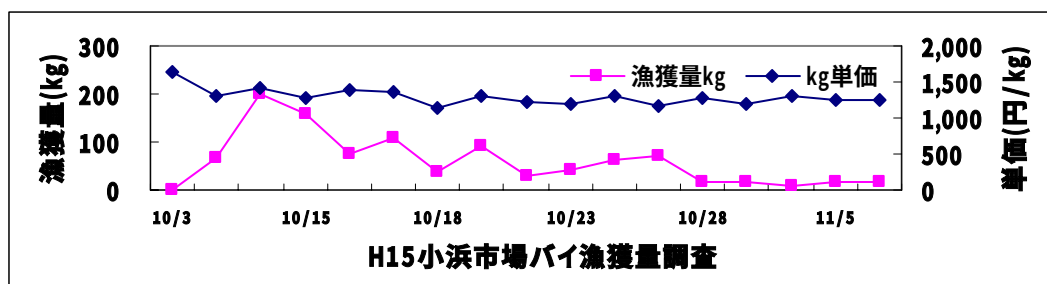
(松宮 由太佳)

+++++ 標識個体の再捕から分かったバイの長命 +++++

平成 15 年 10 月 8 日、県漁連小浜支所(小浜市場)で小浜市西津地区の漁業者が約 20 年振りで行ったバイ簗漁業で漁獲されたものの中に、標識の付いたバイ、通称バイガイが見つかり当センター職員が持ち帰った。この貝は本県沖合いの底曳網漁船で漁獲されるバイ(エッチュウバイ等)とは異なり、浅海の砂質及び砂泥域に生息する本来のバイである。鳥取県では名産品として珍重されてきたが、本県同様、漁獲量の減少に悩んできた貝である。しかし、最近は県内では放流も種苗生産もされていないので、いつ放流したものか分からなかった。あれこれと以前に関係していた職員に問合せをしたり報告書等をもとに調査したところ、昭和 60 年 9 月 4 日に水産試験場が再捕海域の小浜市西津地先水深 3m 付近の砂質に試験放流したものの一部と判明した。標識個体は 501 個で最終的に 3 個の発見となり、これらは放流後約 18 年経過したものであった。個体別のサイズは不明であったが、放流時の平均殻高は約 77mm であり、少なくとも放流時の年齢が 5～6 年と考えられ、年齢的には 23～24 才と推察される。ただ、これだけ年数が経ったのだからどんなに大きいものかと思うが、そのまま売却された 1 個を除き計測できた 2 個の殻高は 92mm と 80mm で、年数の割には成長しないものと分かった。また、このサイズの個体の殻表は黒くしみが付き、60mm サイズのようにきれいな紋様は相当隠れた状態となっており、年齢の重みを感じた。

発見月日	ディスク標識札	殻高 mm	体重 g
H15.10.8	60-219 黄色 10 φ	91.7	120.1
10.14	不明	不明	不明
11.5	60-18 黄色 10 φ	80.1	66.3

いずれにしてもバイが 20 年は十分生存できることが分かり、もしかして 30 年の寿命があるかもしれない。そう思うと、この貝の生命力の強さを感じるとともに、水産資源は放流も含め、良好な漁場環境の保全や漁場管理等を適切に行えば、時間はかかっても我々にそれに応じた答えを用意してくれるものと思った。なお、バイ簗操業時期は 10 月上旬から 11 月上旬までの約 1 月間で延 17 日、漁獲量は約 1.1t であった。



(栽培漁業センター 中島輝彦)

2004 年 4 月の福井丸&若潮丸運航計画

福 井 丸 日 程		若 潮 丸 日 程	
4/5～6	海洋観測・卵稚仔調査(日本海)	4/2	温排水拡散調査(立石)
4/26～27	海洋観測・卵稚仔調査(日本海)	4/6, 14, 21, 26	定置網成調査
		4/12～13	定置水温計設置(小樟・常神)
		4/18～19	瀬付調査(松出・瀬)